

# 都市と交通レポート

C125251A 松田蒼央

## ほかのグループ意見を聞いて

発表者の意見の中に、道路を整備という発想が私たちのグループでは無かった発想だった。交通整備と道路整備は、一見同じに思うが私たちの交通整備は「仕組み」を変えるものだが、チームオムライスの道路整備は「見た目」を変えるもので、視覚的変革は面白いなと感じた。示現できるかはおいておき、ソーラーパネルを利用した「ネオン交通」などであれば、昨今話題の SDGs に配慮した政策で大人が聞いても、好感触になるのではないかと思った。

## 自身の意見

私の意見では、サブスクリプションを用いた免許がなくても生活できる町を作りたいと考えている。そのためには市と地域団体の協力が必要となる。今回は酒田をモデルに、高齢者と学生向けサービスを考えていく。デマンド交通を使った学生向けサービスでは、中高生には「通学～放課後活動」の送迎をカバーするサービスを作る。そうすることで放課後の習い事や買い物を AI で最適なルートと相乗りする人を組んでいくシステムだ。1 か月前から予約可能で 1 週間前からキャンセル料金が発生することで、学生にスケジュール管理能力が身につくほか、雪が降っても充実した学生生活を送ることが可能だ。加えてアプリ化できれば、乗車と降車のタイミングで、保護者に通知を送るほか、GPS 機能でリアルタイムでタクシーを監視できるようにすることで安全面に配慮したサービスを送ることが可能。また利用回数に応じてポイントが付くようにしていき、ルンルンバスの回数券と交換できるようにすると、公益大に入っても通学面で困ることなく生活が送れるようになる。さらに、アルバイト用サブスクリプションを拡張プランで導入すれば、高校生・大学生が気軽に活動できるようになり、若者の活気があふれた町を目指すことが可能である。車を持たない中高生や、もっていない大学生の活動の幅を広げていき、経済的な循環や若者の生活の充実性を高めていくためのサービスがあることで、歩ける街を目指したり、地域の問題に若者が注目してくれるようになるかと私は考えている。このサービスは大学生にとっても友好的なサービスであり、先ほどのターゲットは中高生向けだが、このサービスは高校生と大学生がターゲットとなり、常にメインターゲットが二つ存在している現実的なサービスとなっている。

高齢者向けサービスでは福祉サービスと提携して、送迎や利用者の行きたい場所やレクリエーションとして日和山公園に向かうなど、個人のニーズから団体のイベントとしてデマンド交通と連携することで、活動の幅を広げていくことが可能。さらにライフラインの導線の中に組み込まれているほかに、週末はバスのように、指定された場所に送迎していくサービスを個人の時間に合わせるサービスも実施する。例えば、指定のスーパーや行政など。また、「免許を返納して平日は介護施設にいる高齢者」を対象に同じ方法で娯楽を提供する、いわば「外出機会」を作るサービスもする。ほぼ相乗り前提になってしまうが、同じ福祉施設を利用してる同士で、カフェや市が主催のイベントへ二人以上を送迎する。今まではライフラインに組み込まれていることで「移

動が必需品」となっていたが、このサービスでは「移動が人に会うため」と一人暮らしの高齢者の外出機会になるほか、後から酒田に訪れた人もこのサービスを利用することで、酒田や福祉施設の人となじみやすくなっている。

これらすべては、毎回賃金を払うサービスではなく冒頭で述べた通り、「サブスクリプション」となっているため金銭のやり取りの回数を減らし、利用者が払いやすく使いやすいサービスとなっている。